



KSKQ 乙訓福祉会だより

2023. 8 残暑号 No. 58

統括事業長就任のごあいさつ



坂本 忍



令和 5 年度 4 月 1 日付けで乙訓福祉会居宅部門の統括事業長に就任することとなりました。30 年以上の歴史のある法人運営に携わることにより身が引き締まる思いです。

乙訓福祉会のご家族が「重度の障がいのあるわが子を地域の中で生活させたい」という想いでご尽力され創られた法人です。これまで当会で働いてこられた職員の皆様をはじめ、各関係機関、後援会やボランティアの方々のお力添えで、地域生活に必要な福祉ホームやグループホームなど必要に応じ創ることができ今日まで継続できてきたことに心より敬意と感謝を申し上げます。

入職当時より「自立支援」「自己選択・自己決定」という言葉は聞いていましたが、具体的な成果物として見えるものがなく実感が出来ずにいました。「差異を織る」ところから名前の由来がきている「さをり織」との出会いがありました。「教えないで引き出す」という理念のさをり織は、糸選びの一つ一つが自己選択・自己決定の積み重ねで、それが布として自他ともに目に見える成果物が出来上がる。その布を周囲の方が「きれいね」と認めてくれる。そのことが喜びに繋がり、遣り甲斐や生き甲斐に繋がる。身体に障がいがあっても道具の工夫で織ることが出来る。一人ひとりの利用者が縦糸と横糸が交わるように多くの方々と関わりを持ちながらその人らしい地域生活が送れるように支援していける法人でありたいと思います。

形は様々ですがそのようなエピソードを利用者にも職員にもしてもらえよう取組みを沢山していきたいと考えています。

最後に微力非才の身ではございますが、私の就任に対して皆様からのご指導を頂けることを心より感謝申し上げます。乙訓福祉会の一員として、地域の皆様が「乙訓福祉会があって良かった」と感じて頂けるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

社会福祉法人乙訓福祉会 運営理念

- 1 利用者ひとりひとりの人格を尊重し、個性・特性・能力を大切にしながら、乙訓福祉会の各機関の特色を生かし、あらゆる障がいのある方の「生きる力」の獲得をめざします。
- 2 ノーマライゼーションの理念に基づき、地域の方々や団体等と協調しながら「共に働き、共に暮らす」地域福祉の実践をめざします。

後援会事務局より

新型コロナウイルス感染症の位置付けが 5 類感染症になり、3 か月が経ちました。

いつも通りの生活が少しずつ戻ってきていますが、コロナ罹患者増加傾向にあるようです。

そのような中ですが、各事業所の活動も少しずつできるようになってきました。乙訓楽苑の移転も近づいてきました。

後援会もこれから乙訓福祉会の活動により関わっていきたいと思います。

皆さま、今後ともご協力をよろしくお願い申し上げます。

2022 年度決算報告書

2022 年 6 月 1 日～ 2023 年 5 月 31 日 (円)

収入の部	予算額	決算額	備考欄
前年度繰越金	96,192	96,192	
会費収入	500,000	319,692	振込 134 名
募金箱	30,000	25,190	
雑収入	0	0	預金利子
バザー	0	0	
定期預金解約利子	0	0	
定期預金解約	0	0	
合 計	626,192	441,074	

支出の部	予算額	決算額	備考欄
助成金	50,000	0	
定期刊行物	30,000	15,990	関西障がい者定期刊行物協会会費
福祉会だより印刷費	30,000	5,721	福祉会便り発行料
口座払い込み手数料	15,000	0	振込手数料(振込後援会加入者)
通信費	1,000	0	振込手数料
振込用紙印字サービス	5,000	3,220	今年度より 1 枚 3 円に値上げ
消耗品	4,000	0	お茶代 ノート 名刺印刷代金
寄付	200,000	0	乙訓福祉会(乙訓楽苑)
施設づくり積立金	200,000	0	
青空個展市	0	0	
募金箱御礼品	2,000	2,000	
予備費	89,192	414,143	次年度繰越金
合 計	626,192	441,074	

2022 年度活動報告

1. 乙訓福祉会事業及び後援会活動

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、イズミヤバザー等の事業を自粛
乙訓の里「餅暮れ感謝祭」については開催しましたが、地域との交流を実施しなかったため、助成していません。
- ・乙訓楽苑に 20 万円の寄付を予定していましたが、実施できませんでした。

2. 後援会加入について

- ・加入者数 134 名(前年度より 65 名減)

3. 募金箱の設置及び回収状況

- ・設置箇所 11 カ所
今年度の募金総額: 25,190 円

4. 施設作りの積立金について

- ・今年度は積立ができませんでした。

5. 福祉会便りの発行

- ・今年度は福祉会便りと連携して 2 回発行
2022 年 8 月: NO56 号(残暑号)
2023 年 1 月: NO57 号(初冬号)

2023 年度より会計期間を変更します

現在 6 月 1 日～翌年 5 月 31 日
変更後 4 月 1 日～翌年 3 月 31 日

2023 年度については経過期間として
2023 年 6 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日までの 10 ヶ月決算となります。

募金箱を設置していただきありがとうございます

大山崎町福祉課 高山整形外科
片岡診療所 長岡京市障がい福祉課
かわかみ調剤薬局 向日市障がい者支援課
喫茶アーバン 洋食屋 AKIRA
喫茶パセリ
コトコヒーショップ マサヒロ
すずき内科クリニック 敬称略 順不同



2023 年度 乙訓福祉会後援会役員

会 長 瀬川 光子 運営委員 片岡 卓三
事務局員 図師 弘久 新谷 美沙子
加賀野 良子 土井 紀世
会 計 三宅 州人 高原 嘉子
会計監査 小畑 裕美
村上 和子

乙訓福祉会後援会へのご入会ありがとうございました

2022 年 6 月 1 日から 2023 年 5 月 31 日まで

植田進 矢野サチ子 桂誠司 高原嘉子 野口公代 塚本浩司 新谷美沙子
 大坪重子 長津千鶴子 新谷和人 河合祥子 小畑裕美 西井雄二 鋤持良秀
 大塚進 鋤持良子 鋤持圭一 山本聖子 河村万里 本井美知子 村田光彦
 小川加代子 瀬川光子 田畑勝江 湯川清美 松山英次 中尾信子 作能敦子
 荻野和雄 みやこ不動産鑑定所 山下敏夫 田中久仁雄 川戸徳郎 藤本秀延
 岩崎義典 住田初恵 井上治・早苗 渡辺節郎 外村妃寿代 山条益由・富美子
 渡部福美雄 野邑邦代 西村宗昭 武藤俊子 高島弘美 土井紀世 圓尾豊子
 片山豊・雅代 小枝智子 圓佛誠一郎 秋山喜美江 石角敏明 富島ますみ
 大畑京子 大畑泰次郎 谷川諭紀子 小溝稔 吉岡美智子 福岡昭臣 坂口喜美子
 杉本孝之 杉本佳都子 西川記代子 濱瀬美代子 尾崎輝子 中島晴恵 粟津温重
 石橋克己 内藤建築事務所 阿部和子 東山正美 東山香菜子 村井悦子 三井正敏
 二階堂恵子 京都福祉倶楽部 松本学 松本道代 栗原隆 加福富美代 黒田牧子
 斎藤京子 安藤ルリ子 武山彩子 神谷登喜子 黒川太一 藤本映子 長谷川敦子
 木藤英男 石村和子 小畠みつえ 久角恵 名倉義隆 名倉聡子 江畑早苗
 鶴田京子 池見祥代 森陽子 中山裕介 坂本忍 片山珠紀 豊田信子 安井典子
 稲岡喜美子 宿久千鶴 松井幸子 後藤京子 道尾利之 永田登 牧由紀子
 小池育子 上前道子 直井ふみ子 黒川世都子 四方政則 柿並高光 三村啓子
 松野正昭 松野洋子 松野ひろみ 京都府乙訓向日民主商工会 河村雅之
 濱瀬美代子 匿名 1 名 みやこ不動産鑑定所 上田耕司 久保田英三 松田洋
 桂誠司 小川加代子 吉岡 美智子 山本建三 山本博昭 伊藤憲一

2023 年 6 月 1 日以降

岡田敬子 井ノ本アサ子 神崎陽子 岡崎敏明 河端信義 平井俊次
 諏訪澄子 庵原由伸 小田初美 高松瞭 坂上道代 大石禮子 片岡祐治
 橋本弘美 小畑裕美 植田進 矢野サチ子

敬 称 略

乙訓福祉会 後援会とは？

乙訓福祉会の行う事業や活動について積極的な支援を行うとともに、広く地域の方々に理解と協力を求め、在宅障がい者の福祉の増進に寄与することを目的としています。

活動 ○社会福祉法人 乙訓福祉会への活動支援と協力

○乙訓福祉会本部移転への協力

○乙訓福祉会職員との懇談会

○広報誌『乙訓福祉会だより』の発行 など

会員になるには—

後援会の目的や活動内容に賛同いただき、下記の会費を納入していただいた方を会員とします。

- ・個人会員 年会費 1 口 1,000 円(1 口以上)
- ・団体会員 年会費 1 口 3,000 円(1 口以上)
- ・賛助会員 随 時

後援会には年中ご入会いただけます。その際、会費は郵便振替でお願いいたします。

(2 人以上連名でお振込いただく場合は、通信欄にお名前と口数をご記入いただくと幸いです。)

郵便振替口座 01080-2-52044

会員の皆様には、『乙訓福祉会だより』により乙訓福祉会の取り組み、イベントなど情報をお知らせいたします。

※今回、振替用紙をお送りさせていただいておりますが、ゆうちょ料金改正により現金での振替の場合 110 円の加算料が発生します。ご了承ください。

乙訓の里のイベントより

七夕ウィーク

乙訓の里では、小イベント委員による七夕ウィークが開催されました。七夕の1週間前から短冊作りや飾りつけなど利用者の皆さんが楽しみながら準備をし、短冊にそれぞれの願い事を書かれて笹に結んでおられました。



7月7日の当日は、笹の短冊を写真で撮り、プロジェクターで映しながらみんなでワイワイ言いながら楽しいひと時を過ごされました。

みんなの思いが天の川に届きますように!!



『楽ワザ介護技術 研修』

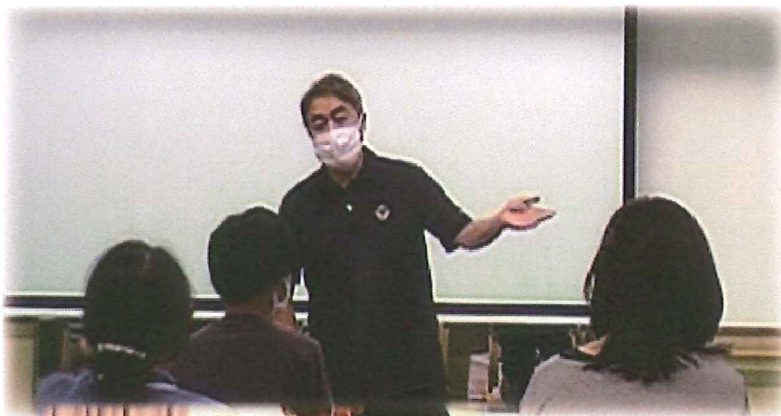


楽ワザ介護技術とは、介護アドバイザーの青山幸広さんが考案された、利用者さんの力や動きを大切にして、それでいて介助者にも負担の少ない介護方法です。乙訓の里には、天井走行リフトもありますが、いざ外出をしようとなったときに、トイレにリフトが備わっているところはありません。そこで、介護技術を高めることで、リフトなしでも安全にトイレが出来たり、移乗の介助が出来る事で行動範囲も広がります。そのことは、自己実現の幅が広がることにつながるのです。つまり、介護を受ける方の“生きがい”や“やりがい”を実現するための一つの方法として楽ワザ介護技術があります。

今回の研修は、実技を中心とした内容で、青山先生の他にもサポートメンバーとしてプロデュースされている施設の方もご参加頂きました。最初に、里での介助場面の動画をいくつか見て頂き、それぞれに合った介護方法を考え、ご提案頂きました。

介助技術は、3種類で3つのグループに分かれて順番に実技をしていきました。それぞれ介助する上でのポイントを教えて頂き、更に実技をやりながらアドバイスを受け、受講者が一通りできるようになりました。

3時間という長丁場でしたが、あっという間に終了の時刻になっていました。青山先生との話で、「実際に利用者さんに対して実演出来たら・・・」ということもありました。里としても、ありがたい話だと思うので、今後、そのような機会も作れたらと思います。



職員紹介

今回は、今年4月に乙訓福祉会の一員となった
フレッシュな職員の紹介です

はじめまして、大学を卒業し、
今年の春から乙訓福祉会で新卒
の職員として働くことになりました、
西嶋 竜誠と申します。



ライフサポート事業所での配属となりましたが、私は学生時代、これまで福祉業界に関わったことはありませんでした。就職活動に偶然紹介され、そこから説明会に行くぐらい未経験でした。まったくの未経験で覚えることの多い毎日ですが、ありがたいことに優しい職員の方々や、利用者の方々に支えられながら仕事をしております。実際に働き始めて、不慣れゆえに難しいと感じることはありますが、一つ一つ自分の目の前の課題がはっきりわかり、それをどう解決するべきか考えながら働くことはとてもやりがいを感じています。将来、利用者の方々から信頼される支援者として働けるように頑張りたいです。

最後になりますが、まだまだ覚えることの多い新人の身ですが、伸びしろを生かしてどんどん成長していきたい
と思います。
これからもよろしくお願いします。



2022 年度 (令和 4 年度) 決算報告

法人単位資金収支計算書

(自) 令和 4 年 4 月 1 日 (至) 令和 5 年 3 月 31 日

第一号第一様式

(単位: 円)

勘定科目	予算 (A)	決算 (B)	差異 (A)-(B)
障害福祉サービス等事業収入	411,781,000	413,185,911	△ 1,404,911
その他の事業収入	5,630,000	5,558,300	71,700
借入金利息補助金収入	1,214,000	1,213,754	246
経常経費寄附金収入	1,180,000	1,130,750	49,250
受取利息配当金収入	8,000	2,572	5,428
その他の収入	3,106,000	2,982,655	123,345
事業活動収入計 (1)	422,919,000	424,073,942	△ 1,154,942
人件費支出	333,476,000	331,359,166	2,116,834
事業費支出	28,719,000	27,327,522	1,391,478
事務費支出	44,140,000	41,807,103	2,332,897
支払利息支出	1,389,000	1,387,748	1,252
その他の支出	1,431,000	1,376,430	54,570
事業活動支出計 (2)	409,155,000	403,257,969	5,897,031
事業活動資金収支差額 (3)=(1)-(2)	13,764,000	20,815,973	△ 7,051,973
施設整備等補助金収入	1,684,000	1,683,068	932
施設整備等収入計 (4)	1,684,000	1,683,068	932
設備資金借入金元金償還支出	7,020,000	7,020,000	0
固定資産取得支出	1,378,000	1,376,400	1,600
ファイナンス・リース債務の返済支出	2,153,000	2,152,300	700
施設整備等支出計 (5)	10,551,000	10,548,700	2,300
施設整備等資金収支差額 (6)=(4)-(5)	△ 8,867,000	△ 8,865,632	△ 1,368
積立資産取崩収入	2,193,000	2,192,962	38
その他の活動収入計 (7)	2,193,000	2,192,962	38
積立資産支出	5,800,000	5,800,000	0
その他の活動支出計 (8)	5,800,000	5,800,000	0
その他の活動資金収支差額 (9)=(7)-(8)	△ 3,607,000	△ 3,607,038	38
予備費支出 (10)	1,040,000	—	1,040,000
当期資金収支差額合計 (11)=(3)+(6)+(9)-(10)	250,000	8,343,303	△ 8,093,303
前期末支払資金残高 (12)	145,869,000	145,875,575	△ 6,575
当期末支払資金残高 (11)+(12)	146,119,000	154,218,878	△ 8,099,878

法人単位貸借対照表

令和 5 年 3 月 31 日現在

第三号第一様式

資産の部				負債の部			
	当年度末	前年度末	増減		当年度末	前年度末	増減
流動資産	163,448,802	163,133,312	9,315,490	流動負債	24,749,724	23,636,537	1,113,187
現金預金	95,894,679	66,028,765	7,965,914	事業未払金	4,555,216	3,526,916	1,028,300
事業未収金	63,437,342	61,841,429	1,595,912	1 年以内返済予定設備資金借入金	7,020,000	7,020,000	0
未収金	1,700,025	1,689,327	10,698	1 年以内返済予定リース債務	2,434,600	1,756,800	678,000
未収補助金	720,660	1,346,669	△ 615,509	未払費用	678,493	613,785	△ 135,302
立替金	459,097	23,556	430,529	預り金	67,310	2,667	64,643
前払費用	226,509	196,573	29,936	職員預り金	2,923,915	2,911,369	11,546
				賞与引当金	7,665,000	7,602,000	△ 537,600
固定資産	688,693,670	608,592,034	△ 19,898,364	固定負債	135,893,677	140,590,838	△ 5,697,262
基本財産	478,722,363	496,433,014	△ 17,709,653	設備資金借入金	97,731,000	104,771,000	△ 7,040,000
土地	231,539,169	231,539,169	0	長期返済資金借入金	30,000,000	30,000,000	0
建物	246,183,194	263,892,846	△ 17,709,652	リース債務	6,964,300	5,918,600	1,915,700
定期預金	1,000,000	1,000,000	0	退職給付引当金	576,377	771,339	△ 192,962
その他の固定資産	109,971,307	112,160,019	△ 2,188,712	負債の部合計	160,643,401	164,227,476	△ 4,184,075
建物	10,556,577	11,569,974	△ 4,093,497	純資産の部			
構築物	14,515,220	15,977,329	△ 1,462,109	基本金	91,975,774	91,975,774	0
機械及び装置	376,661	2,398,570	△ 2,021,909	第 1 号基本金	91,975,774	91,975,774	0
船舶運搬具	13	13	0	設備補助金等特別積立金	135,603,726	147,275,722	△ 11,671,996
器具及び備品	6,162,395	6,259,746	△ 97,435	その他の積立金	65,668,081	61,868,081	3,800,000
有形リース資産	9,439,600	6,902,400	2,537,200	人件費積立金	2,500,000	2,500,000	0
権利	1,240,600	1,240,600	0	修繕積立金	11,968,500	12,948,500	△ 1,040,000
ソフトウェア	1,133,667	2,181,667	△ 748,000	備品等購入積立金	6,150,000	6,150,000	0
退職給付引当資産	573,377	771,339	△ 192,962	施設・設備整備積立金	41,423,300	36,583,300	4,840,000
人件費積立資産	2,500,000	2,500,000	0	移行時特別積立金	3,656,281	3,656,281	0
修繕積立資産	11,565,550	12,949,550	△ 1,040,000	長期繰越活動増減差額	297,851,490	296,378,293	1,473,197
商品等購入積立資産	6,150,000	6,150,000	0	（うち当期繰越活動増減差額）	5,273,197	28,957,794	△ 23,684,597
施設・設備整備等積立資産	41,423,300	36,583,300	4,840,000	純資産の部合計	691,009,071	697,497,870	△ 6,308,799
移行時特別積立資産	3,656,281	3,656,281	0	負債及び純資産の部合計	751,142,472	761,725,346	△ 10,582,874
資産の部合計	751,142,472	761,725,346	△ 10,582,874				

◆ 職員状況 (3月末)

乙訓の里 管理者 1 名 / サービス管理責任者 (所長) 1 名 / 所長補佐 1 名 / 支援員 18 名 / 事務員 1 名 / 医師 (嘱託医) 1 名 / 看護師 1 名
 乙訓楽苑 管理者 1 名 / サービス管理責任者 (所長) 1 名 / 所長補佐 1 名 / 支援員 13 名 / 事務員 1 名 / 医師 (嘱託医) 1 名 / 看護師 0 名
 放課後等デイサービス事業所ぱぐ 管理者 1 名 / 児童発達支援管理責任者 1 名 / 保育士 1 名 / 児童指導員 2 名
 ハイツ竹とんぼ 管理者 1 名 / ホーム長 1 名 / 管理人 2 名 (非常勤) ハイツさくら サービス管理責任者 1 名 / 管理者 1 名 / 世話人 4 名 / 生活支援員 4 名
 ハイツまんでん サービス管理責任者 1 名 / 管理者 1 名 / 世話人 7 名 / 生活支援員 14 名
 乙訓福祉会ライフサポート事業所 管理者 1 名 / サービス提供責任者 6 名 / 登録ヘルパー 41 名
 相談支援室のこのこ 管理者 1 名 / 相談支援専門員 3 名

◆ 理事会「役員会」・評議員会等の開催状況

監事監査 2022 年 5 月 13 日 (金)
 理事会 (役員会) 第 1 回 2022 年 6 月 10 日 (金)
 第 2 回 6 月 25 日 (日) 第 3 回 12 月 8 日 (木)
 第 4 回 2023 年 3 月 16 日 (木)
 評議員会 (役員会) 第 1 回 2022 年 6 月 25 日 (日)
 第 2 回 12 月 17 日 (土) 第 3 回 2023 年 3 月 25 日 (土)

◆ 会議・相談会等

虐待防止委員会 第 1 回 2022 年 9 月 20 日※書面決議

乙訓楽苑施設移転・建設に係る打合せ 第 1 回 2022 年 5 月 11 日(水) 第 2 回 7 月 13 日(水) 第 3 回 9 月 14 日(水)
第 4 回 11 月 9 日(水) 第 5 回 2023 年 1 月 11 日(水)
第 6 回 3 月 8 日(水)
乙訓楽苑移転に係る融資相談会 2023 年 2 月 6 日(月)

◆ 感染症について

新型コロナウイルス感染者の発生状況

発生期間 2022 年 7 月 21 日～2023 年 2 月 2 日

利用者 21 名 職員 29 名 ※重症化した者なし

◆ 各事業所の取り組み

✿ 乙訓の里 生活介護事業所 (主対象：身体障がい者)

1. 利用者状況

利用者数：24 名(3 月末) 年間平均利用実績：20.1 名

女性 15 名 / 男性 9 名 障害支援区分平均 5.92 年齢平均 41.2 歳

2. 事業総括

・乙訓福祉会の基本理念の実現をめざし、法人開設当初からの作業・機能維持訓練・社会経験活動の三本柱の取組を継承しながら、障害者総合支援法に基づく生活介護事業所として、主に重度の身体障がいのある方々の日中活動支援に取り組んだ。

・新型コロナウイルス感染者が 9 月に数名出たことにより、施設内での感染拡大を防ぐ為、一時的に利用者・家族に対して通所自粛の協力を要請した。

・コロナ禍により、地域の方々を招いて行う行事等の中止を決定し、小グループの活動も公共交通機関利用や人出の多い場所へ行くこと等を控えた。

・生活介護プログラムの終了後、感染予防対策を行い、在宅での入浴が困難な方に対する入浴サービスの提供を実施した。

3. 活動内容

3-1 生産作業活動

・バザー等の予定がされない中での作業活動となった。作業収入が見込めないことから、作業内容の変更も行った。また、工賃も例年どおりに毎月支払うことができないと予想された為、4 か月ごとに収支をみて、配分金を渡すこととした。

・昨年度に引き続き、製品等のカタログを作成して社会福祉協議会や支援学校など関係機関に対してカタログ販売を行った。結果として、前年度と比べて約 10 万円の減収となり、売り上げは 70 万円弱であった。配分金は、年 3 回支給した。

・長岡京市より敬老の日の記念品として押し花入り紙漉き和紙の注文を受けた。

バザー参加状況

・ほっこりんぐ(毎週金曜日に長岡京市役所本庁受付横に出店場所を提供して頂き、各事業所が交代で販売)には、5 月・9 月・10 月の 3 回出店した。

・公サ連バザーや障がい者・児の人権を考える市民のひろば、ガラシャ祭りに出店した。また、きりしま苑内で行われたきりしまステージで商品を委託販売するなど、販売機会を得ることができた。

・イズミヤ長岡店でのふれあいバザーは、新型コロナウイルス感染防止の観点より 4 年続けて中止とした。

・ほっとはあとセンターが運営する常設店舗では、コロナ禍の関係で観光客が少なかったが、夏以降は徐々に観光客も増え、売り上げもアップした。

参加実績計 8 回

3-2 機能訓練・生活訓練

(1) 機能訓練

・身体機能の維持と二次障がいの予防を目的に、ストレッチ・マッサージを中心とした機能維持訓練を実施した。

・利用者個々の訓練マニュアルに沿って、週 2 ～ 5 回の機能訓練を実施した。

・月 1 回、作業療法士に利用者の身体機能評価と訓練メニュー作成に係る助言を頂くと共に、職員に対する技術指導をお願いした。

来所・指導等実績計 10 回

・車いす使用時の姿勢や、その際に起きる体の痛み等への対応に係る相談が多く寄せられた。

(2) 生活訓練

・生活上で便利な道具を活用できるように支援した。意思伝達装置(パソコン)の試行を重ね、今後も継続して活用できると判断し、意思伝達装置の購入へとつなげる支援が出来た。またこれまでと同様に、さをり織機やミシンのスイッチも工夫・改良するなど、利用者の“やりたい”に寄り添う支援を行った。

(3) 音楽療法(ミュージック・ケア)

・身体機能の維持、リラックスなどを目的として、音楽に合わせて身体を動かす取組を実施した。

・実施曜日を固定すると参加できない利用者が出ることから、希望者

が出来る限り参加できるように担当講師と日程調整を行い実施した。

実施回数：22 回

3-3 社会経験活動(自治会活動・グループ活動等)

(1) グループ活動

・コロナ禍により、公共交通機関を利用する外出活動の自粛を行い、人手の少ない公園での活動や敷地内でお弁当を食べるなど気分転換のできる取組を増やした。

・調理実習やデリバリーで食事を調達するなどした。また、インターネットを使って食材の値段の確認をする等、コロナ禍でもできることを考えて実践した。

社会経験活動 実施状況 計 20 回実施

作業活動における社会経験活動 実施状況 計 24 回実施

(2) 自治会活動について

・乙訓の里の利用者が運営する「利用者の会」であり、利用者自らが会費を出し合い自主的な活動を行っている。職員は、ホームルーム(自治会の時間)の進行補助やプロジェクターを活用して利用者の発言をパソコンで要約筆記し、スクリーンに投影された文字で参加者全員が確認できるようにするなど会議を円滑に進める為の支援を行った。

(3) 給食委員会

・利用者・職員・調理委託業者間で毎月 1 回給食提供に係る話し合いの場を設けた。

・コロナ禍でもあり、zoom を使ったリモート会議で実施した。

(4) その他

・「住み慣れた環境×介護」というオンライン研修に利用者と共に参加した。

・3 月に行われた WBC の決勝戦を利用者の皆さんが大きなスクリーンで観戦した。

4. 全体行事について

・今年度は地域の方々を招いての行事は中止し、内部のみの活動となった。

年度初めの会 / もち暮れ感謝祭 / 新年会 / お花見

5. 健康管理について

実施内容

・看護師によるバイタルチェック(血圧・脈拍・検温) ※血中酸素濃度検査も実施

・体重測定：毎月 1 回 ・検尿：年 1 回 ・内科検診：年 2 回 ・歯科検診：年 1 回

・特定健康診査(希望者) 年 1 回 ・インフルエンザ予防接種(希望者)：年 1 回

・地域療育等支援事業(きらっと巡回)：歯科衛生士の施設訪問による巡回指導 実施回数：9 回

訪問理美容

・居宅・在宅での理美容対応が困難な利用者に対して、訪問理美容を実施した。

※基本実施日⇒毎月第一木曜日 実施回数：12 回 / 年間

6. 安全管理について

・第 1 回：火災による避難訓練・消防訓練を実施した。

・第 2 回：当事業所が長岡京市のハザードマップでは河岸浸食の区域に入っている為、豪雨を想定した 避難訓練を実施した。

※消防設備点検：9/7、2023/3/13

7. 実習生等受け入れ実績について

・福祉専門職や教員の養成に係る社会福祉援助技術実習の受け入れを行った。

・支援学校卒業後の進路を考える為の体験実習生の受け入れを行った。

・重度訪問介護従業者養成研修受講生の受け入れを行った。

・マイナビやリクナビからの求職者に対する見学の受け入れを行った。

受け入れ実績 36 名

8. ボランティアの受け入れ実績について

・ボランティア活動の内容は、利用者と直接関わる作業のサポートや食事介助、外出時の支援がある。また直接利用者とは関わらないが、施設に来所して行う食器の後片付け、或いは在宅で行うことができる作業の準備などがあり、様々な活動をいろいろな形で支援して頂いた。

・ボランティア受け入れ：延べ人数⇒192 名

・長岡京市社会福祉協議会主催のお助けサポーター(ボランティア)講座にリモートで参加した。実際に当事業所で活動しているボランティアさんにも協力頂き、ボランティア活動や施設の紹介を行った。

9. 職員の介護技術向上への取組み

・職員の介護技術の向上を図る為、青山幸広氏を招いて「楽ワザ介護術」の研修を 2 回開催した。

10. 送迎車両関係について

・キャラバン 4 台、セレナ 2 台を運行させ、自宅等への送迎を実施した。

・アルコール検知器を購入。道交法の改正に基づいて 2023 年 1 月より出勤・退勤時にアルコールチェックを実施した。

11. その他

・施設開放：近隣自治会役員会(6 回 / 年)、近隣自治会年末清掃活動・お餅つき

・地域貢献：近隣自治会が 2 ヶ月に 1 回実施する「ちよぼら(小泉川

のゴミ拾いと草刈り)」に職員がボランティアとして参加

乙訓楽苑 生活介護事業所（主対象：知的障がい者）

1. 利用者状況

利用者数：28 名（3 月末）年間平均利用実績：27.7 名

女性 13 名 / 男性 16 名 障害支援区分平均 5.5 年齢平均 44 歳

2. 事業総括

・乙訓福祉会 法人理念の実現をめざして、乙訓楽苑は重度知的障がい者の「日中活動の場」として、利用者一人ひとりの自己実現と社会参加の促進を図る為に、活動プログラムを提供してきた。

・活動現場では、利用者個々の障がい特性や健康に配慮しながら、活動グループ毎に支援態勢を整えてプログラムを提供した。

・活動の見通しをもってもらう為、利用者個々の能力に応じた視覚化の支援を実践し、不安や混乱の軽減に努めた。

・新型コロナウイルスの感染防止対策として、換気・消毒等は日常化し、密集にならないよう活動を大きく 2 グループに分けて実施した。

3. 活動内容

3-1 余暇活動と健康維持の取組み

利用者の余暇活動の充実と健康維持・増進の為、活動内容と実施曜日を以下のように定めて実施した。

・歩行活動と音楽体操による体力づくり

利用者の年齢や歩行速度等を考慮し、市内の公園等に出かけて散歩等の取組みを行った。

利用者全員で行う歩行外出は難しい為、親しみのある曲から流行の音楽まで幅広い音楽に合わせながら室内でのストレッチ体操を実施した。

・クラブ及び委員会活動（毎週 1 回 木曜日）

利用者が楽しんで取り組める活動として、和太鼓・カラオケ・絵画・ドライブ・クッキング・フラワーアレンジメント等のクラブ活動を実施した。さらに年間行事の運営係を委員会として割り振り、利用者が自分たちで行事の内容を考えて実施できるよう工夫した。

外部インストラクターを招いての取組み

・音楽療法「ミュージック・ユケア」（月 1 回 火曜日午前）

<講師：森田氏>

5 月から新講師にて音楽や楽器を用いた利用者の心と身体リラクゼーションを実施。決して無理強いせず、個々の情緒安定を目指した。

実績：9 回

・3B体操（月 1 回 第 4 火曜日午前）

<講師：藤井氏・五十川氏他 ※基本：2 名で来所・指導>

実績：0 ※新型コロナウイルス感染予防対策として講師より自粛申出

・ラフター（笑い）ヨガ（月 1 回 第 3 火曜日）

<講師：澤田氏他 2 名 ※基本：2 名で来所・指導>

呼吸運動と笑うことにより自律神経を整える効果が期待される取り組みとして実施した。

季節をイメージした会話や日々の生活動作を運動に取り入れることによって、楽しく身体を

動かす機会とすることができた。

実績：10 回

3-2 作業活動の取組み

利用者の意向を調整し、選択した作業に取り組むことで一人ひとりの意欲向上や充実感が増すことに繋がるよう、支援体制と作業環境等を整えながら以下の作業を実施した。

<作業内容>

・さをり織り ・たまご紙パックを使用した紙粘土製品 ・染め ・EM ボカシ作り

・段ボール織り ・アクリル樹脂小物 ・缶プレス及び地域協力者宅等へのアルミ缶回収作業

作業活動で作成した自主製品は、地域の小規模バザーを中心に販売した。

・年 2 回（5 月と 10 月に開催）の「ふれあいバザー」は新型コロナウイルス感染防止の為、中止とした。

・公サ連バザー（5 月）や市民のひろば（12 月）にて乙訓の里と共に出店販売を実施した。

・長岡京市から市役所本庁受付横に製品等の販売場所（名称：ほっこりんぐ）を提供して頂き、乙訓の里と共に出店販売を実施した。

・きりしまフェスティバル（9 月・1 月）には、製品を数週間に亘り販売スペースに置いて頂いた。

参加実績 計 5 回

<作業収益について>

作業で得た収益を配分金準備委員の利用者、職員で確認を行い、年 3 回の配分を実施した。

3-3 自治会活動の支援

各活動を担当する利用者を自主的に決めていただき、中心となって進める利用者のサポート態勢を整えた。

<委員会>

・あけちゃったよ（餅つき）・オソリンピック（ミニ運動会）・おはしもち（避難訓練）・給食 ・配分金 ・ボランティア交流会

3-4 グループ活動等について

社会経験と生活経験を積み重ねる活動を実施した。

活動内容は、昨年度に引き続き利用者がイメージしやすく、且つ見通しを持ちやすくする為の工夫（視覚化）をした。

全体カリキュラム時も屋外へ出る活動と同時に実施し、密にならないよう工夫をした。

3-5 乙訓楽苑の全体行事について

楽苑春のパン祭り / オープンデー 2 回 / 楽苑地蔵盆 / がくえんカフェ 5 回 / GAKUEN オソリンピック / ハロウィン仮装ダイカイ / GAKUEN クリスマス / 新年あけちゃったよ会 / マメマキダイカイ / 楽苑交流会

※「楽苑パン祭り」はコロナ禍をぬって全体のクッキング行事として実施した。

※「地蔵盆」は毎年の恒例行事として、利用者・スタッフともに楽しんだ。

※「がくえんカフェ」は将来地域開放に繋げるべく、利用者の楽しみとおもてなし企画として年 5 回開催。うち 1 回はオープンデーを兼ねた。

※「新年あけちゃったよ会」では餅つき機を活用し、餅の成形を中心に楽しんだ。

※「乙訓楽苑交流会」では、ボランティアの方々以外に施設関係者をお迎えし、楽苑利用者と一緒にカリキュラムや作業を体験していただいた。

3-6 健康管理について

実施内容

・看護師によるバイタルチェック ・体重測定：毎月 1 回 ・検尿：年 1 回

・内科検診：年 2 回 ・歯科検診：年 1 回 ・特定健康診査（希望者）年 1 回 ・インフルエンザ予防接種（希望者）：年 1 回 ・コロナワクチン接種（希望者）：年 1 回 ・地域療育等支援事業（きらっと巡回）：歯科衛生士訪問による歯科指導⇒実施回数：12 回

訪問理美容

・理美容対応が困難な状況にある利用者に対して、訪問理美容を実施した。定期的に利用され、安心に繋がり、ご家族にも好評である。

※基本実施日⇒毎月第 2 火曜日 実施回数：12 回

3-7 安全管理について

新型コロナウイルス感染予防の為、消防署の立ち入りはなく、全て利用者とスタッフでの自主訓練として実施した。

*自主避難訓練実施日：7/15・10/7・3/10 *消防設備点検：7/27・2/3

3-8 ボランティアの受入れ実績について

・隔週月曜日に 3 時間の継続ボランティア登録者と 2023 年 2 月より毎週水曜日に 4 時間のボランティア登録者の実績あり。

3-9 実習生等の受け入れについて

・地域の中学生の体験や行政職員の新人研修等は見合わせたが、施設利用を希望される方の

体験、向日が丘支援学校生徒の体験実習、介護等体験は再開した。

受け入れ実績 17 名

3-10 環境整備

・6 月に大阪ガスの寄贈プログラムに申請し、中古パソコンを安価で購入。利用者専用パソコンとして活用中。

・7 月に医務室のエアコンを取り替えた。

・12 月に 10 年以上使用していた洗濯機を 8 キロ二層式洗濯機に買い替えて、節水に努めた。

放課後等デイサービス事業所ばぐ 指定障害児通所支援事業

1. 利用者状況

利用者数：20 名（3 月末）年間平均利用実績：7.5 名

2. 事業総括

開所以来約 10 年が経過した。送迎の完全実施以降、安全な運行が出来ている。

放課後の活動時間及び長期休暇期間中に、日常生活における基本的な生活動作の習得を図った。また、集団の中での諸活動に適応出来るよう、一人ひとりの個別性に配慮し、個々の発達段階や生活年齢にも留意しながら支援を行った。そして、個々の障がい特性に合わせて活動内容を柔軟に変更すると共に、必要に応じて施設環境の構造化を図る等の配慮も行った。

新規の利用児童にも、日常生活の様子や健康状態を把握する上で必要な面談の実施や支援学校の担任教諭との情報共有を図り、他の連携機関とも必要な調整及び連絡を入念に図ることで受け入れ準備を周到に行った。

また、家族からの相談や支援方法に関する要望に応え、延長利用等も実施した。

3. 活動内容

①平日放課後の活動

曜日で利用が異なる児童に合わせて、過ごし方のプログラムを柔軟に変化させて対応した。

前年度に引き続き、コロナ禍での対応として、全体での活動は時間を短縮して取組み、出来るだけ「密」にならないよう配慮し、小集団及

び個別での活動を意識して実施した。

- ・体調や生活リズムが安定するように、個別の配慮と働きかけ方に留意した支援を行った。
- ・健康維持の為、個別のストレッチや、近隣の散歩を増やした。
- ・水分補給の工夫（形状や濃度・味覚に関する）に努め、とろみ食や流動食も提供した。
- ・「音楽遊び」では、児童の好きな音楽を演奏し、楽しく、またリラックス出来るように工夫した。また「様々なゲーム遊び」等では順番を守る、待つという意識が身に付くように配慮をした。
- ・精神的な安定を図る為、スケジュール等の見通しがもてるよう、視覚的支援が必要な児童に文字や絵カードを用いて当日の予定を作成し、毎回本人と確認するようにした。
- ・遊びや学習教材を提供する際に、その目的を明確に伝えることで、放課後の過ごし方が充実した。また、近隣の店舗におやつを買いに行く「買い物学習」も行った。
- ・友だちとの関係を作ることが苦手な児童には、絵カードを用いて良い関係と良くない関係を説明し、その改善を図る試みを実施した。
- ・2～3人の小集団で取り組むゲーム遊び（カードゲーム、おもちゃ遊び、ジェンガ等の積み木遊び等）や、個別学習（塗り絵、迷路図、計算問題、折り紙等）にも取り組んだ。

②長期休暇の活動

前年度に引き続き、外出や外食は控え、室内等での活動を中心に行った。コロナ禍の対応として、衛生管理を徹底して、感染予防に配慮した活動を行った。

- ・夏休み、児童が大好きな「スーパーマリオ」を題材にしたゲーム遊びを提供し、みんなで楽しんだ。また玄関口に大きなビニールプールを出し、グループに分かれて、水遊びを楽しんだ。昼食時には、衛生面に配慮し調理実習を中止し、児童が好きなメニュー（カレーライス、餃子、焼きそば、牛丼等）を提供した。
- ・冬休み、クリスマスウィークでは、ボランティアグループの「ハッピーバンパー」の方々に来ていただき、みんなで音楽会を楽しんだ。またお正月明けに乙訓寺へ初詣に出掛け、この1年の健康を皆で祈った。
- ・春休み、3月下旬には「ばぐ卒業式」を開催。ばぐの利用当初からの写真を集めて編集した贈り物を個々に手渡し、向日が丘支援学校を卒業する4名をばぐから送り出した。

4. 避難訓練の実施

12/27、3/17

5. 保護者交流会

- ・新型コロナウイルス感染症予防のため、昨年に引き続き中止とした。

6. 機関紙の発行

- ・「ばぐだより」を毎月発行し、日々の活動の様子や取り組みの紹介をした。

便りは写真等を織り交ぜた構成とし、次月の活動予定や新人職員紹介等も紙面に載せて、皆にお知らせした。

7. その他

- ・「児童福祉法に基づく指定通所支援の事業等の人員、設備及び運営に関する基準」の改正に伴い、事業所自己評価及び、保護者等からの事業所評価アンケートが義務付けられた。その集計結果を京都府に届け出たと同時に、法人ホームページにアップして外部に公表した。
- 【保護者等からの事業所評価結果】評価対象保護者数：23名 評価表回収数：21枚 評価割合（回収率）：91%

✿ ハイツ竹とんぼ 福祉ホーム事業

1. 福祉ホーム利用状況と障害者に関して

入居者数 9 名（3 月末） 障害支援区分平均 6 平均年齢 56.6 歳
施設利用状況 一時利用（入浴）延べ 50 回（緊急等）4 日（虐待）0 日（開放）0 日

- ・在宅重度心身障害者緊急一時保護補助事業の実施 ※長岡京市のみ
- ・虐待一時保護事業の実施
- ・地域開放⇒共用スペース（食堂・調理室）※但し、平日の昼間帯（10 時～14 時）の間

2. 実施事業

- ・2021 年度同様、新型コロナウイルス対策に終始した一年であった。ホーム内でも人の密集を極力避け、消毒換気を徹底した。利用者は自居室で過ごす時間中心の生活となった。利用者の新型コロナ感染が疑われる場合の対策として、行政が示した方法に沿ってホームをゾーニングすると共にスタッフには感染防護の研修を実施し、実際に利用者が発熱した際にはその対策をとりながら支援した。行政からの検査キットを使用し、発熱者（利用者及び職員）の陰性陽性を素早く把握し、結果に応じた対策、調整を行った。
- ・2022 年 8 月 17 日～9 月 7 日の期間で屋根の改修工事を実施した。（請負業者：山下建設株式会社）
- ・西側の植木の伐採を実施した。（植木に蜂が巣を作り、職員が蜂にさされる事故があったため）
- 3. ホーム職員が担った役割

①利用者の健康で豊かな地域生活の創造に向け、高い介護技術・知識と温かな人間性を備えたヘルパーの育成に尽力した。また、常にご利用者のニーズ把握に努め、ヘルパーと協調しながら快適な暮らしのコーディネート心を心がけた。

②利用者が安全で健康的な生活が実現できるように、入居者のかかりつけ医や訪問看護等、地域医療等との連携に配慮した。またヘルパーとも定期的に協議の場をもった。

③利用者やそのご家族と施設利用に関する要望を伺う場を定期的に設けた。

⇒『家族の会』（2ヶ月に1回）への参加を予定していたが、新型コロナウイルス対策として 6 月の計 1 回のみの開催となった。

④利用者の安全な生活の為に、土砂災害警報等発令時には「乙訓の里」へ避難する事を想定して必要物品の備蓄等を行った。また、各入居者にも必要物品の準備を呼びかけ、準備状況を点検する機会も設けた。

4. 緊急避難訓練

- ・土砂災害避難訓練（職員のみ）⇒1 回
- ・夜間火災想定避難訓練⇒（職員のみ）⇒1 回
- ・不審者侵入時対応訓練（職員のみ）⇒1 回
- ※ライフサポート事業所の常勤職員と合同で実施

✿ ハイツさくら 共同生活援助事業所

1. 利用者状況

利用者数：4 名（3 月末） 障害支援区分平均 5.25 平均年齢 47.5 歳 年間平均利用実績：3.7 名

2. 事業総括

- ・ホーム職員と居宅介護ヘルパーが積極的にコミュニケーションを図りながら、多くの人の手で支え合い、安全、安心な支援を提供できる様、定期的なミーティングの開催や外部研修への参加、支援ツールを活用したアプローチを実施した。
- ・利用者、家族の加齢に伴い、利用者一人ひとりのニーズに添った支援が必要と考え、ご家族、ホーム職員、介護ヘルパー、他機関との連携を密に行い支援内容の検討と調整を行った。
- ・例年通り、2階ベランダの緩降機（通称：オリロー）を緊急時の避難器具として活用できるよう、避難訓練を計画、実施した。また、自動火災通報装置を適切に使えるよう、関係業者による研修会やオリローの使用演習を実施した。
- ・災害に備え、ペットボトルの水や非常食、レトルト食品等の点検、利用者の避難用靴の点検を実施した。
- ・コロナウイルス感染対策として、リビングのテーブルにアクリル板を設置した。又、定期的な換気や消毒を実施した。職員にはフェイスシールドを配布し、支援時の着用を徹底した。
- ・大山崎町社会福祉協議会の歳末たすけあい募金配分金で食器乾燥機、炊飯器、掃除機、掃除機用紙パックを購入した。

3. 主な活動等

《避難訓練》

・自動火災報知機及びオリロー体験：7/6 ・利用者合同避難訓練：11/17

《行事》

- ・利用者の誕生会は例年通り誕生月に開催。
- ・利用者の誕生会がない月は季節のお菓子を提供。
- 《その他》
- ・7 月、11 月、3 月にヘルパーミーティングを開催。
- ・6 月と 12 月に大掃除を実施。

✿ ハイツまんてん 共同生活援助事業所

1. 利用者状況

利用者数：6 名（3 月末） 障害支援区分平均 5.6 平均年齢 50.3 歳 年間平均利用実績：4.8 名

2. 事業総括

- ・ホーム職員と居宅介護ヘルパーが積極的にコミュニケーションを図り、定期的なミーティングの開催と申し送りの徹底により安全、安心な支援を提供した。
- ・光熱費や物価高騰に伴い、共用部と居室照明器具の LED 化、事務用品の経費削減も図った。
- ・ご家族の高齢化に伴い、他事業所と連携をして週末の余暇時間も充実させた。日常生活動作の低下がみられる利用者には、通院支援、服薬管理、食事の見直し、環境整備を行い身体及び精神面の安定に努めた。
- ・発熱者に対しては、発熱者対応マニュアルに沿って支援を行い、ご家族と連携しながら一定期間ご自宅で過ごしていただくこともお願いした。
- ・避難訓練を計画、実施した。自動火災通報装置を適切に使えるよう、訓練中は警報音の鳴動を省略せずに行った。また、地震・火災を想定

した利用者との合同避難訓練も実施した。

・新型コロナウイルス感染防止対策を徹底して行った。

3. 主な活動等

・6/3 乙訓防火サービスによる自動火災警報器操作、オリローの操作説明とヘルパーによる消火、オリロー、避難訓練の実施。
・利用者との災害避難訓練の実施（地震避難訓練 10/13、火災訓練 2/6）

・ヘルパーミーティング：6/3 ハラスメント研修を実施。10/7 各利用者支援についてのミーティングを実施。2/3 虐待防止の DVD を視聴。

・きらっと巡回：7/27, 11/30, 3/29。

・新型コロナウイルス感染防止対策として、フェイスシールド、ゴーグル、マスクの着用、ジェスバやアルコールを使用した定期的な館内消毒、換気、検温の徹底。発熱者対応と連絡体制の徹底を行った。

・まんてん、すみれ合同行事：7/7 セタ、9/8 お月見、10/31 ハロウィン、12/22 クリスマス会、2/2 節分会、利用者の誕生日月に誕生会を 4 回実施。

乙訓福祉会・ライフサポート事業所 居宅介護事業等事業

1. 利用者及び派遣実績状況

・居宅介護事業等事業（居宅介護・重度訪問介護・行動援護）利用契約者数：27 名（3 月末）月平均派遣実績時間数：3186.5 時間

・移動支援事業 利用契約者数：6 名（3 月末）※利用契約者数は、居宅介護事業等事業と重複して利用される方を含む。月平均派遣実績時間数：12.3 時間

2. 事業総括

・障害者総合支援法に基づく、居宅介護従業者の派遣事業である居宅介護事業等（居宅介護、重度訪問介護、行動援護、及び移動支援）を通じて、当会が運営する「福祉ホーム」、「グループホーム」に入居される方や地域で生活される身体・知的・精神障がい者の、自立と社会経済活動へのより一層の参加促進を図ることと、当会の運営理念の実現をめざし、広く地域の公益性・公共性に結びつく活動を積極的に展開。

・「職員育成プログラム企画・推進委員」が中心となり、職員内部研修を計画的（毎月 1 回の開催）に実施。様々な角度から『障害当事者の生活全般にわたる支援の安全・安心』を考える機会とし、職員の自己研鑽を図った。

部署により勤務時間が違う為、今年度は合同研修ではなく、各部署で研修を実施した・・・①

コロナ禍により、集団で集まることが困難な年でもあり、十分な研修体制が取れなかった。

リモートや DVD 視聴研修等も取り入れて研修を実施した。

・職員全員の健康診断を実施。・・・②

※①②については、特定事業所加算を受けるための要件として定められています。

・地域での生活、地域における生活の支援を希望する障がい当事者、並びにご家族の皆様からの要望は数多く多岐に亘るという現状がある。それを受けて、満足のいくサービス提供ができる組織を作る為にも、人材確保に力を注ぎ、雇用後は業務の定着と段階的にキャリアアップが可能な仕組みを検討した。

・感染防止用品の確保と配布、感染防止マニュアルを作成して周知を図る等、コロナ禍でも職員が出来る限り安心して利用者支援に携わることができるように努めた。

・会議の在り方も検討し、開催回数を減らす、リモート会議に変更するなど工夫した。

乙訓福祉会・ライフサポート事業所 居宅介護従業者養成研修運営部門

1. 目的

当会の運営理念の実現を目的に、公益事業として居宅介護等事業での従業者確保の視点をもち、地域生活を営む障がいのある方の様々な生活支援を担う居宅介護従業者（障がい者ヘルパー）を養成すること。また「介護職員等による喀痰吸引等研修（第 3 号研修）」の登録研修機関として、医療的ケアを必要とする障がいのある方の支援をする居宅介護従業者を養成する為、下記の研修を実施した。

2. 重度訪問介護従業者養成研修（実績概要）

居宅介護従業者養成研修事業（重度訪問介護従業者養成研修基礎課程及び追加課程の併修課程＝計 20 時間）

第 1 回 2 月 修了者 23 名 内ライフサポート事業所登録者 1 名

3. 介護職員等による喀痰吸引等研修【第 3 号研修】（実績概要）

第 1 回 11 月 受講者 基本研修 + 実地研修 19 名

4. 経過と課題及び総括

・介護職員等による喀痰吸引等研修（第 3 号研修）の基本研修については、乙訓圏域障がい者自立支援協議会及び医療的ケア委員会と協同で実施した。

・重度訪問介護従業者養成研修は今年度より年 1 回の開催としたが、本研修自体が大阪保育福祉専門学校の選択科目に位置付けられたことで同専門学校の学生 14 人が受講した。

・来年度も引き続き、重度訪問介護従業者養成研修並びに介護職員等による喀痰吸引等研修の企画について、それぞれ年に 1 回の開催を予定する。

相談支援室のこのこ 指定相談支援事業所

1. 事業総括

国が定める「相談支援業務従業者」の資格要件を満たす相談支援専門員 3 名が、本事業の方針に基づき以下の事業を実施した。

2. 事業内容及び実績

・指定特定相談支援：障がい者（知的・身体）・障がい児

①サービス利用計画等の作成 51 回 / 年

②継続サービス利用支援（モニタリング）の実施 212 回 / 年

③サービス担当者会議の開催 13 回 / 年

④他機関開催の会議参加（児童進路相談への参加等）、緊急対応等会議開催や訪問 7 回 / 年

・指定一般相談支援

①地域移行支援 0 回 / 年

②地域定着支援 0 回 / 年

3. 利用数

・64 名（内児童 3 名）

※事業の実施地域は、乙訓圏域を基本としているが、法人が運営する通所事業所の利用者に限定して一部圏域外の方も支援契約の対象としている。

4. その他

①乙訓圏域障がい者相談支援事業所連絡会 ※定例会（月 1 回）

・参加回数：8 回 ※リモート会議

・他事業所との情報交換及び行政への提案を行った。

②見学

・のあホーム長岡京（長岡京市）…共同生活援助

・ラシェール清水（八幡市）…共同生活援助

・グループホーム寿樹（長岡京市）…共同生活援助

・みわ翠香園（福知山市）…障がい者支援施設

・南山城学園（城陽市）

・島本デイセンターふらっば（島本町）…地域福祉センター

・ディケアカムカム（向日市）…生活介護

・レモンテラス（島本町）…障害者自立支援拠点

③研修

・医療的ケア児コーディネーター養成研修（1 名）

・令和 4 年度 京都府障害福祉従業者専門研修（1 名）

（※児童分野の相談支援及びサービス提供）

決算報告についてはフムネットの
「社会福祉法人の財務諸表等電子開示システム」
で公開しています

ご支援ありがとうございます

2022 年度も乙訓福祉会に多くのご支援を
いただき、ありがとうございました。

田中 邦也様

谷川 諭紀子様

酒井 恵子様

外賀 公子様

長岡あじわう会様

片岡診療所様

泉が丘自治会様

大山崎町社会福祉協議会様

乙訓楽苑家族会様

乙訓の里親の会様

多くのボランティアの皆様

順不同・敬称略

中学生 職場体験活動

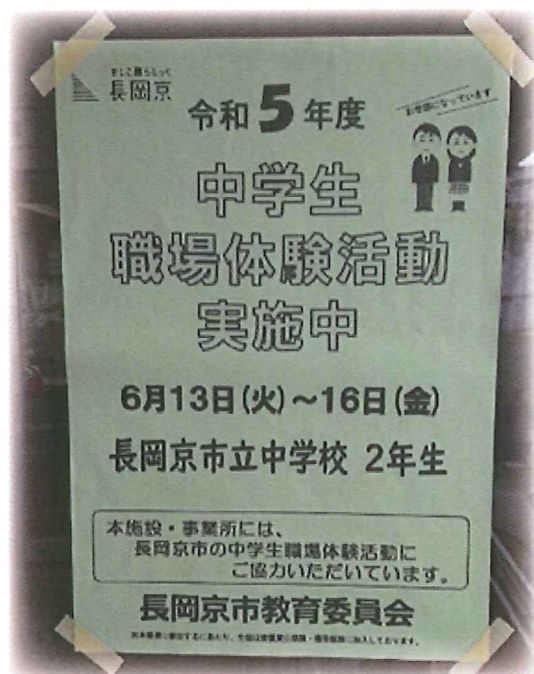


6 月 13、14 日の二日間、地域の中学校から 2 名の生徒さんが乙訓の里に来られました。

最初は、お二人とも緊張気味でしたが、お茶の介助や作業の支援などに携わってもらう中で、利用者さんとお話をされていたり、また、ミュージックケアと一緒にしたりすることで、少しずつ緊張もほぐれてきている様子でした。また、利用者さんの作業であるさをり織も体験してもらい、作業の楽しさや自己表現の難しさなどを感じておられました。

2 日目になると、利用者さんの食事介助も和やかな雰囲気でおられ、乙訓の里に溶け込んでおられました。

あっという間に 2 日間が終わり、最後の挨拶では、お二人とも「楽しかったです。」「また、(乙訓の里) に来てもいいですか?」と言われ、利用者さんも「いつでも来てください。」と笑顔で返事をされていました。



《編集人》

乙訓福祉会 後援会 〒617-0836 京都府長岡京市勝竜寺長黒 1-3 乙訓福祉会気付

《編集協力》

—地域のまんなかで障がいのある方々と共に— 社会福祉法人 乙訓福祉会

〒617-0836 京都府長岡京市勝竜寺長黒 1-3 [本部]

TEL (075)952-0888 FAX (075)952-0889



ホームページ <http://www.otokunifukushikai.com/> Eメール otokuni-fukusikai@k4.dion.ne.jp

乙訓の里 (生活介護 - 主: 身体)

乙訓楽苑 (生活介護 - 主: 知的)

ハイツ竹とんぼ (福祉ホーム - 主: 身体)

ハイツさくら (共同生活援助 - 主: 知的)

ハイツまんてん (共同生活援助 - 主: 知的)

乙訓福祉会・ライフサポート事業所

▽居宅介護等事業所 ▽研修室

相談支援室 のこのこ

放課後等デイサービス事業所 ぱぐ